

**平成21年度「市政懇話会」
第3回「鳥取市版アジアゲートウェイ構想」部会議事概要**

日 時：平成22年1月20日（水）15：00～16：00

場 所：鳥取市役所本庁舎4階第4会議室

出席者

【委員】5名

【鳥取市】大田経済戦略課長

【事務局】平田

【オブザーバー】1名

部会長あいさつ

本日は構想の展開の取っ掛かりができたらしい。

それぞれの得意分野で意見を聞かせてほしい。

意見交換

大田課長

- ・本市の環日本海のプロジェクトでロシアの調査事業を実施する予定。
- ・人間的な交流をしながら、次の貨物につなげていきたい。
- ・来年度は、商工会議所と連携して、貨物を誘導、企業を回っての輸出を考えている。
- ・今度は中国の東北部とのつながりを作っていきたい。
- ・また、人づくりの部分でも、東海・環日本海に行っていただくような事業を考えている。

オブザーバー

- ・物流では、神戸が非常に充実している。また、金額的にも境港より神戸の方が断然安い。
- ・ただ、今後、釜山がアジアにおけるハブ港化している中で、かなり大きなウェイトを占めているので、その活用をどのように強調していくか。
- ・「るるぶ」があるが、あれは「見る」、「食べる」、「遊ぶ」。この中に「学ぶ」を加えることが必要。
- ・また、ショッピングにあたって、ブランド品を扱う店が少ない。ロシア料理、韓国料理を扱う店が少ない。

委員

ロシア人の志向についての情報が足りない。言葉、文化の隔たりも大きく、先にそちらの理解を深めるべき。

委員

- ・ 韓国の新聞社が毎年しゃんしゃん祭りを見に来るなど、局所的なつながりはあるが、広がりが出てきていない。
- ・ 米子空港に到着する観光客は買い物がしたいため、帰りは関西空港を利用することが多い。
- ・ 鳥取の商店は外貨を受け付けない。
- ・ 果物輸出の可能性を探るべき。
- ・ 高速道路が整備されると、畿内方面への人の流れが加速する。鳥取に立ち止まらせる何かが必要。
- ・ 外国人に日本の伝統的な雰囲気味わってもらうために、鳥取城跡は活用できる。
- ・ 宿泊地として、皆生、大山、松江が優勢。
- ・ 大阪とのアクセスの良さを強調して鳥取を宣伝し、米子空港、境港から観光客を引っ張る。

委員

- ・ 食品に求める要素が国によって異なる（瑞々しさ、味、形、色など）
- ・ 繁盛している直売所の分析が足りない。成功の要因、更なる問題点を把握すべき。

大田課長

ロシア人観光客のための観光情報を作成する予定である。

委員

鳥取、韓国、ロシアで共通の何かを見つけて、親近感、関心を持たせていく。

オブザーバー

外国人観光客向けの列車乗り放題切符があるが、智頭急行が対象外なの問題。

大田課長

個人観光客向けの境港周辺の周遊きっぷがない（バス乗り放題など）

オブザーバー

DBS クルーズにこだわりすぎると厳しい。ロシアからの観光客はそれほど期待できない

委員

政策としては、浜田市、舞鶴市の環日本海政策もあるが、まず、境港市の対ロシア、対韓国政策を参考にすべき。

川上委員

- ・ロシアの前にまず中国・韓国が先。
- ・できることから、無理せず、共通性をどう見出すか。鳥取の魅力を再確認・再認識することが必要。

部会

本日の意見をまとめ、今後の会で報告する。

閉会